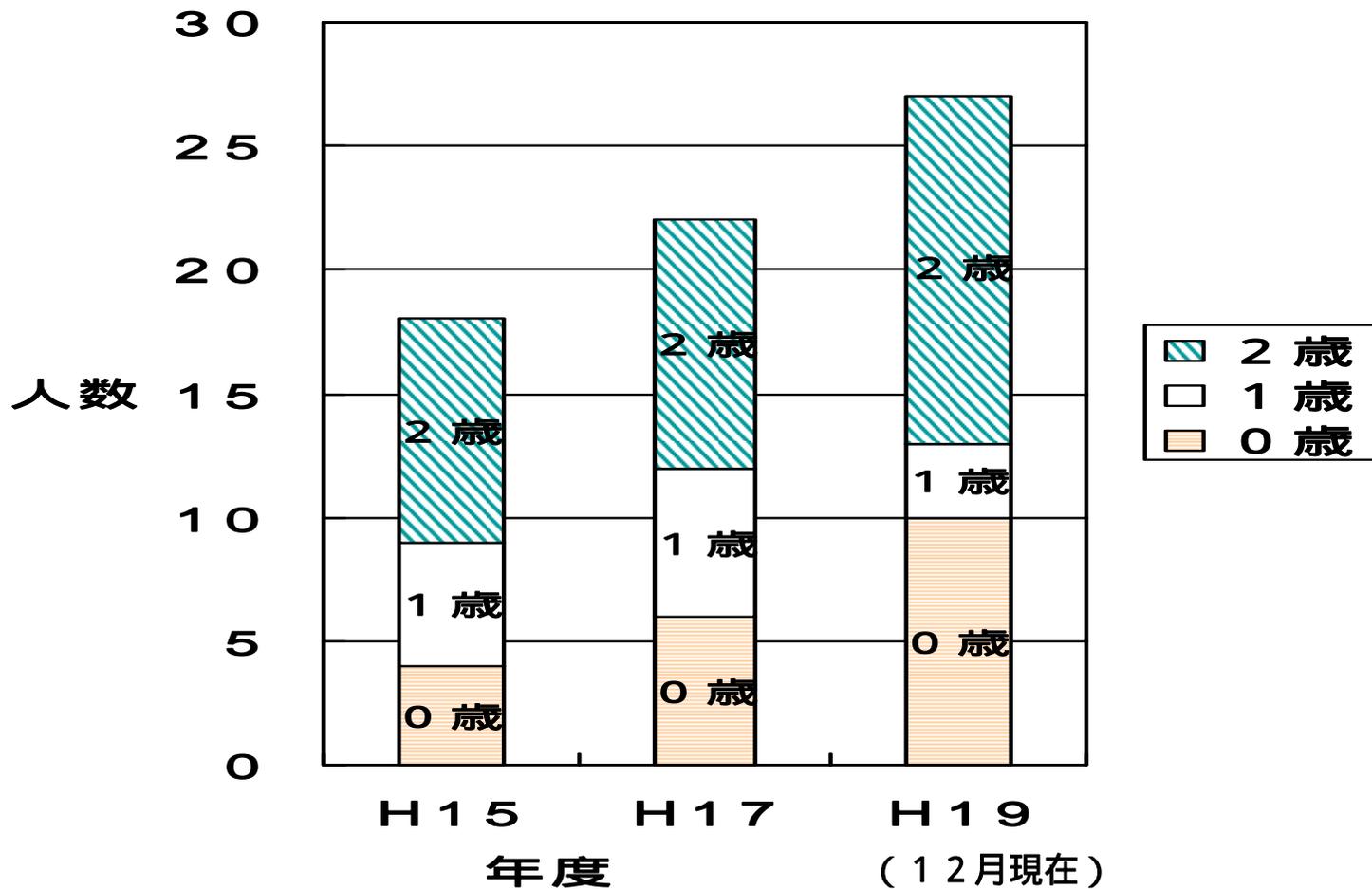


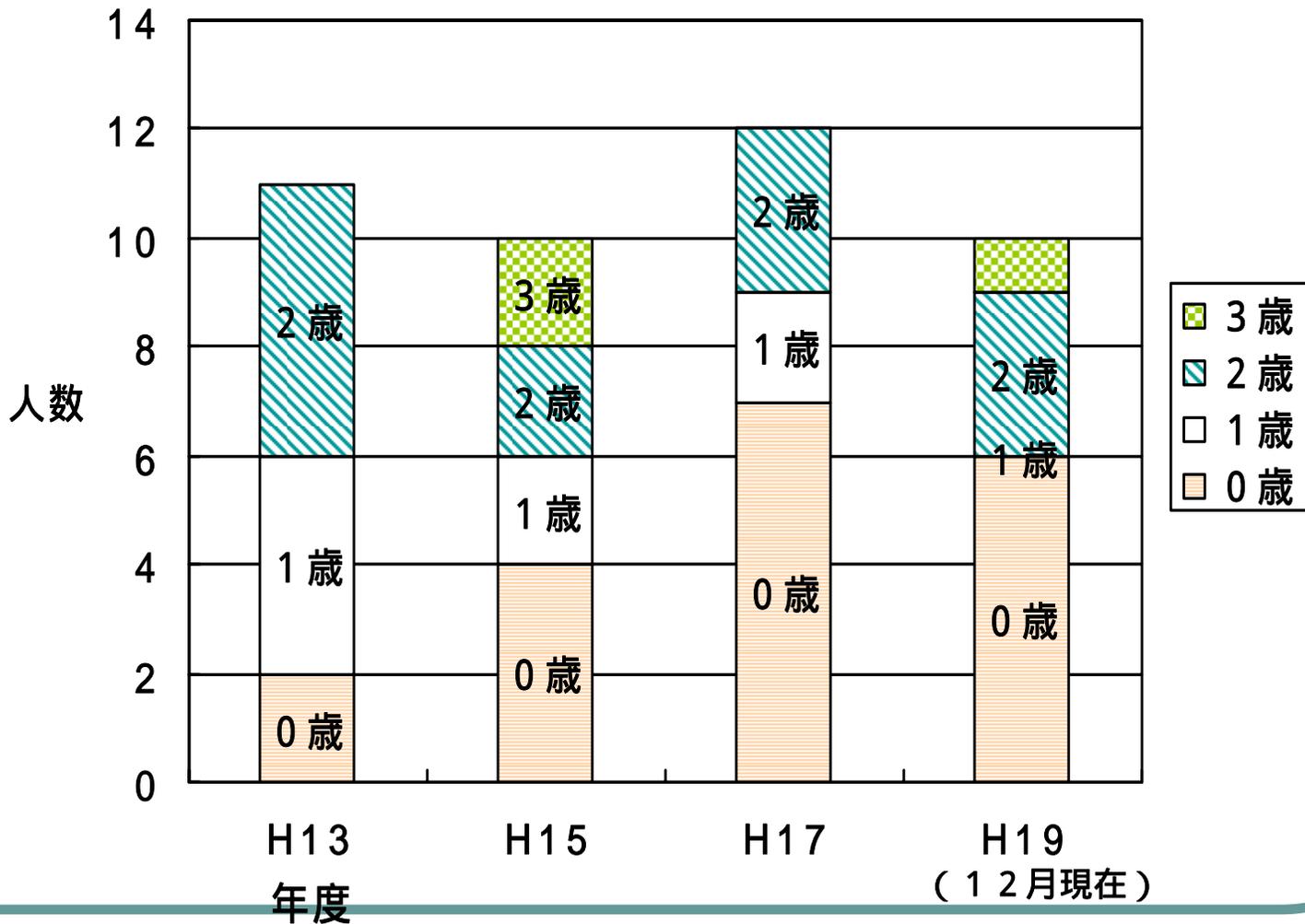
# 聴覚障害の早期発見後の支援内容について

北海道旭川聾学校 乳幼児相談室

# 年齢別相談者数の推移



# 初回相談の年齢別推移



# 研究の取り組み

## (1) 相談初期の保護者支援に関する事例

- ◆ 聴覚障害と診断された際の年齢や相談に至る経過の異なる 6 事例
- ◆ 初回相談、3 カ月後、6 カ月後の支援の経過  
～ 保護者の状態や課題、ニーズ、具体的な支援

# OAEでリファアとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

## <プロフィール>

- ・0歳児、男児
- ・先天性高度難聴
- ・ABR両耳無反応

# OAEでリファアとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

## < 初回相談時：0歳4カ月 >

### 保護者の状態

- ◆ 心理的に揺れ動いている。
- ◆ 医師から受けた説明  
～補聴器をつけても音はきこえないでしょう。  
人工内耳を勧めます。
- ◆ 子どもの耳は全くきこえていないと思う。
- ◆ インターネットや本などの情報から、前向きになったり、落ち込んだりする。

# OAEでリファーマーとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

< 初回相談時: 0歳4カ月 >

## 保護者のニーズ

- (ア) ショックや不安の軽減
- (イ) 保護者が持っている情報の整理
- (ウ) 療育・教育への見通し
- (エ) 地域における総合的な支援

# OAEでリファーとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

< 初回相談時：0歳4カ月 >

## 支援の内容

- (ア) 不安やショックなどに共感しながら話をきく。
- (イ) ABRの特徴やCORの結果、人工内耳の概要について説明し、補聴器の装用を勧める。
- (ウ) 乳幼児相談室の支援の概要や幼稚部の教育内容について説明する。
- (エ) 地元の保健師に、母親への支援の必要性について伝える。

# OAEでリファーマーとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

## < 3カ月後：0歳7カ月 >

### 保護者の状態

- ◆ 同じ時期の姉と比べて要求が少ないと感じる。
- ◆ 補聴器は家ではすぐ外してしまい困る。
- ◆ 明確な装用効果はないと感じている。
- ◆ 保健師からの子育て支援サークルなどの誘いに  
応じないような状態である。
- ◆ 障害者手帳申請の際、診断書の内容に疑問が  
あるが、担当医師に伝えられない。

# OAEでリファアとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

< 3カ月後：0歳7カ月 >

## 保護者のニーズ

- (ア) 補聴器の装用と聴性反応を観察するための支援
- (イ) 購入手続きに関する支援
- (ウ) 子どもに共感して楽しく遊ぶための支援
- (エ) 親同士が交流できる場の設定
- (オ) 医療機関や保健機関との連携

# OAEでリファーマーとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

< 3カ月後：0歳7カ月 >

## 支援の内容

- (ア) 装用時は親子で楽しい経験を共有すると良いこと、音への反応、発声の違い、気づきやすい生活音や音遊びの方法を紹介する。
- (イ) 市役所の福祉課に保護者への説明を依頼する。

## OAEでリファーとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

< 3カ月後：0歳7カ月 >

### 支援の内容

- (ウ) 微弱ながらも様々な表現をしていること、  
家族が共感し、応じることで、表現が増える  
ことを説明する。
- (エ) 0歳児グループや行事への参加を勧める。
- (オ) 地元の小児科と耳鼻科、保健センターを  
訪問し、今後の支援についての情報交換を行う。

# OAEでリファーとなり、3カ月後のABRで 感音性難聴と診断された事例

< 6カ月後：0歳10カ月 >

## 保護者の状態

- ◆ 1日に2～3回数十分ずつ装用できるようになり、子どもの耳が全くきこえていないわけではないと感じ始める。
- ◆ 子育て日記に子どもとかかわることが楽しいという内容が見られるようになった。

# 保護者の心情の傾向

6つの事例より

支援開始直後と支援開始6カ月後の

保護者の心情の変化について

障害発見時の年齢ごとに傾向をまとめた

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## スクリーニングによって発見されたケース

- 出産直後から母親の心理的不安が大きい。
- リファアの後、適切な支援を受けられず困惑している。
- 全く聞こえていないと思い込みかかわりが希薄になる。
- 聴覚障害の実感が少ない（中等度難聴の場合）
- 聴覚以外の子どもの発達に関心が薄くなる。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## スクリーニングによって発見されたケース

支援開始↓6ヶ月後

- ・ 子どもの障害の状態を理解することで、不安が軽減される。
- ・ 聴覚だけではなく、全体的な発達に目が向くようになる。
- ・ 子どもの成長や良い面に気づくことで愛着が増す。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## 1歳代で発見されたケース

- 他障害を併せ持つケースでは、聴覚障害に対しては悲観的ではない。
- コミュニケーションの取りにくさを感じ始めるが、かかわりの面でまだ深刻に悩んでいることは少ない。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## 1歳代で発見されたケース

支援開始↓6ヶ月後

- ・子どもとかかわる際の課題が見え始める。
- ・子どもの表現を受け止めることの大切さに気づき子どもの表情をよく見るようになる。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## 2歳代で発見されたケース

- ・ 発見が遅れたことを後悔する。
- ・ 伝えにくいことを実感している。
- ・ 言っても分からないと思い、伝えることをあきらめる。
- ・ 親子関係がぎくしゃくしている。
- ・ しつけやかかわり方で困っている。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## 2歳代で発見されたケース

支援開始↓6ヶ月後

- ・ 伝えあうことの楽しさや必要性を感じ始める。
- ・ 早くことばを話してほしいと焦る。
- ・ ことばを教え込もうとする気持ちが強くなる。
- ・ 次の療育・教育機関への移行の選択を迫られる。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## 共通して見られた傾向

- 診断を受けた直後のショックと将来への不安に揺れ動く。
- 自分を責めたり、障害の原因を追及する。
- 医療機関で説明を受けているが、対応に不満を持っている。
- 様々な情報を集めるが、偏っていたり、子どもの状況を捉えられない。

# 事例に見られた保護者の心情の傾向

## 共通して見られた傾向

### 支援開始↓6ヶ月後

- ・ 担当者に、子どもとのかかわりや家族の悩みを話せる。
- ・ 保護者同士が共感し合える場ができ、気持ち安定する。
- ・ グループ活動を通し、子どもの良い面や課題に気づく。
- ・ 家族に障害の理解が得られないことに不満を持ち始める。

# 補聴器の装用に関する心情の傾向

## スクリーニングによって発見されたケース

- 補聴器をつける姿を見て、かわいそうに思う。
- トラブル(外す、なめる、壊すなど)が多く、親子ともにストレスを感じる。
- 反応が曖昧で再現性がなく、装用効果を実感しにくい。
- 楽しく遊ぶことより、装用効果を確認する。

# 補聴器の装用に関する心情の傾向

## スクリーニングによって発見されたケース

支援開始6ヶ月後



- ・子どもの微弱な反応や発声の変化など、観察の観点が分かる。
- ・装用して楽しくかかわることの大切さに気づく。

# 補聴器の装用に関する心情の傾向

## 1、2歳代で発見されたケース

- 補聴器をつけると話せるようになると思う。
- 後ろから話しかけたり、音声言語だけでコミュニケーションをとろうとする。

# 補聴器の装用に関する心情の傾向

## 1、2歳代で発見されたケース

支援開始6ヶ月後



- ・ 子どもの発声や表現が増え、うれしく思う。
- ・ 補聴器をつけても、様々な手がかりを使い、伝え合う必要があることが分かる。

# 補聴器の装用に関する心情の傾向

## 共通して見られた傾向

- 学校では一定時間装用できるが、家庭では嫌がり困る。
- 障害を持ったことを再認識し、悲しく思う。
- 補聴器をつけて外に出ることに抵抗がある。

# 補聴器の装用に関する心情の傾向

## 共通して見られた傾向

支援開始↓6ヶ月後

- ・ 反応の見方や発声の変化などから、装用効果を感じる。
- ・ 音の気づきに共感したり、意味を知らせながら楽しくかかわることができるようになる。
- ・ 校内の子ども達を見て、補聴器に対する否定的な感情が軽減される。



# まとめ

- ◆ 障害が発見された時期や経緯による保護者の心情の違いや課題に共通な傾向がある。
- ◆ 家族全体に目を向けて支援を行うことが保護者の安定を図る上で重要である。
- ◆ 病院、保健センター、発達支援センターとの連携を深めることで、早期に適切な療育につながる地域が増えた。

- Video¥2. PIP early Education 2007.avi

終わり